

2019年12月10日

先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で下落しました。また、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、米中貿易戦争懸念の強まりや米国の経済指標が軟調であったことなどがカナダ・ドル円やカナダの金利の重石となりました。4日（現地）にはカナダで金融政策決定会合が開催され、カナダ銀行（中央銀行）は市場の予想通り政策金利の据え置きを決定しました。ただ、発表された声明文が市場の来年以降の利下げ観測を後退させる内容であったことは、カナダ・ドル円やカナダの金利の上昇圧力となりました。

経済指標では、雇用統計が発表になっており、雇用者数は予想外に減少し、失業率も悪い結果になったため、相場の下押し材料となりました。

今週の見通し

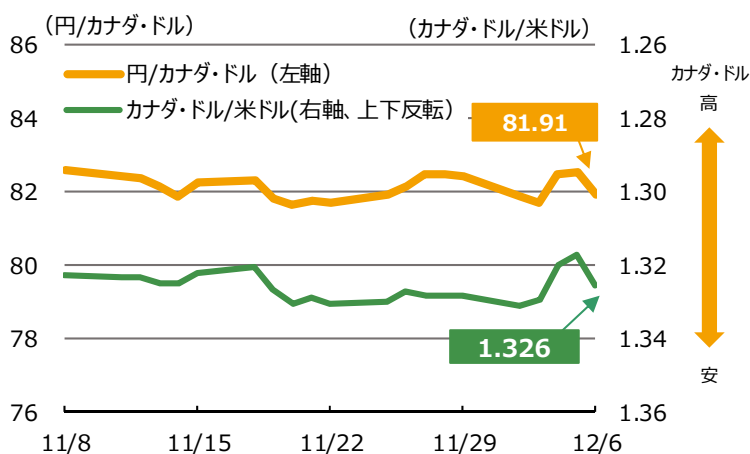
今週、カナダでは住宅着工件数、住宅建設許可の発表があり、双方とも市場予想を下回る軟調な結果になりました。

米国ではFOMC（米国連邦公開市場委員会）の開催が予定されており、政策金利は据え置きとの見方が優勢になっています。

また、今週は重要なイベントが多くなっています。12日（現地）には英国議会総選挙の実施が予定されています。15日（現地）は米国による中国への追加関税の発動期限となっており、追加関税が実際に発動されるかどうか、注目する必要があります。

カナダ・ドル 為替推移

(2019年11月8日～2019年12月6日)

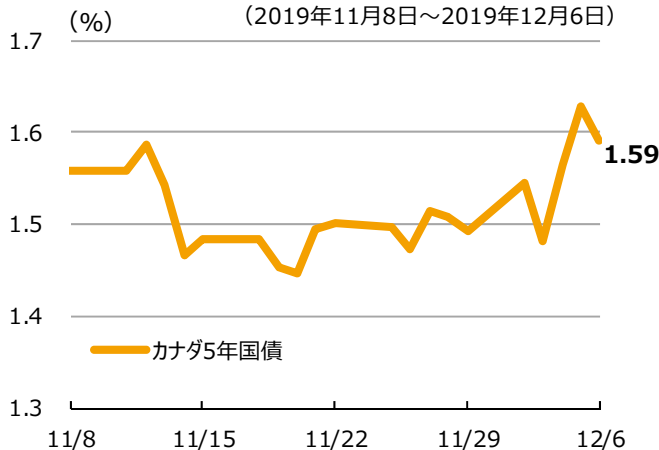


※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

カナダ 金利推移

(2019年11月8日～2019年12月6日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。